



発行所 公益社団法人 高知県診療放射線技師会
発行人 会長 巴 昭彦
事務局 〒780-0850
高知市丸ノ内1丁目7番45号
総合あんしんセンター2階
TEL・FAX 088-872-4585

所 感

『医工連携』

副会長 伊東 賢二

皆さんは、医工連携という言葉についてどのようなイメージが浮かびますか？

「診療放射線技師と何の関係があるの？」「関係ないんじゃない？」と思われませんか？

診療放射線技師には活躍できるフィールドがあると、私は若い頃から思っております。医療と工学は切っても切れない間柄ですが、臨床の現場での提案・アイデアを理工学分野の方々に相談しに行くとお互いの行きたい方向、更には言っていることが分からない状態に陥り、結局何を相談しに行ったのか分からなくなってしまうといったことが起こります。

医療と工学を少しずつ分かっているわれわれ診療放射線技師は、お互いの架け橋になることができる、そういうポテンシャルを持っている集団ではないかと思えます。医学（人体、生理）は未だ分からないことの方が多く、臨床の現場はネタの宝庫とも言えます。何とかそのようなことができる仕組みができればと思っておりました。

そこに、思いを叶えることができそうなチャンスが巡ってきました。高知大学医学部大学院に医工連携コース（仮名）を作ろうかとの計画です。医学部長に自分の思いを何度か話したところ、お前も設置メンバーに入って2年後の開設を目指して担当教授、臨床工学部技士長と私の3名で素案を作るようにとの、ありがたいお話をいただきました。

ベンチャー（スタートアップ）、研究者の育成だけではなく、研究とは別に実際に現場で役に立つ医療工学技術者育成も必要かと思っております。大規模病院では病院システム（HIS、電子カルテ）、また各部門システム、HISのサブシステムなど効率的構築をするには、医療現場と工学（システム工学やコンピューターの知識）を理解し、看護師、コメディカル、医師、事務等の要望を聞き入れベンダーと交渉する能力、マネジメント能力、コミュニケーション能力が必要となります。併せてこのような人材育成もできたらと思えます。また、工学部の若手研究者、学生を附属病院に短期受け入れできる仕組みを作り、装置・機器、ソフトウェア開発ができるフィールドができればとも考えております。

技術と経営の両方に精通している人材育成を強化するような組織づくりができると、他の組織との差別化が可能になりますし、実際このような大学院は未だ何処にもありません。

私は、残念ながらこのコースが始まる2年後には定年を迎えますが、診療放射線技師にもさまざまな未来、道があるのだということを、少しでも示すことができたらと思いを巡らせております。

会の動き

令和元年度 第9回常務理事会

3月3日(火)、総合あんしんセンターにて第10回常務理事会を開催した。

業務拡大に伴う統一講習会(高知県開催)を終了して！ 巴 昭彦

2020年2月24日(日) J A高知病院コミュニティホールでの開催をもって、標記講習会の高知県開催は終了した。

今後は、東京会場と大阪会場での開催が年5回程度予定されているが、詳細についてはJART会誌3月号を参照して頂きたい。

本講習会は、高知県では第1回目を2015年度12月に開催し、2016年度8月、2017年度11月、2018年度より7月と2019年2月、2019年度も7月と2020年2月。6年間に合計7回の開催であった。その間、開催責任者として会場を見守ってきたが、長時間缶詰めの苦行に対して、和気あいあいと、真面目に講習会を受講して頂いたと思っている。

本県開催の延べ合計総受講者数は141名。その内訳として本県会員の受講者は109名、他県会員の受講数は12名、未入会員は20名であった。

本県会員数201名(2020年3月)、JART会員数177名、本県診療放射線在籍数393名(2017年10月JART調べ)。JART会員数を分母とすると受講率79.7%であるが、本県診療放射線技師在籍数を分母とすると35.9%となり、決して良い受講率とは言えない。

今後も医師の働き方改革に伴うタスクシフト/シユアリングの検討が進み、新たな業務拡大の道が見えてきている。(JART会誌3月号巻頭言を参照)

本県会員の受講生109名の皆様には、諸般の事情を排して本講習会を受講して頂いたことに敬意を表します。受講費も会員15,000円は高いという意見が多かったですが、診療放射線技師として新たな専門分野の2単位を取得したと思えば決して高くないと思います。

我々は診療放射線技師として、人のためになる仕事を行い、やりがいある業務をこなし、前向きに、興味深く、業務に勤しみ、その上、尊敬を得られたら言うことはないのですが、他の医療専門職と同様に厳しい未来も見えています。

私は潮江高橋病院で今年定年を迎えましたが、あと5年間の再雇用契約を交わし、もう少し現役で頑張ります。診療放射線技師として次のステップに挑みたいと思っています。

医療専門職の定めとして、日進月歩の技術革新への対応と、付加価値の高い情報提供、技術者と人格者の両面で常に研鑽を行うことは義務といえます。

会員各位には、今後の新たな業務拡大に対する積極的な挑戦を期待いたします。みんなで明るい未来をめざしましょう！

最後になりましたが本講習会開催のため6年間ご協力頂いた講師各位とスタッフの皆様、そして、最後の開催会場となったJ A高知病院の会員諸兄に深く御礼を申し上げます。

！ルー エッセー！

その188（ 生原 大嗣：高知医療センター ）

先月、日本メジフィジックス 舘野祐太さんからバトンを受け取った高知医療センター 生原です。舘野さんは昨年から当院の核医学検査科のMR担当をしてくださっており、そのご縁でご紹介いただきました。一筋縄ではいかないような要望にも嫌な顔一つせず応じてくださっており大変頼もしく思います。そのため今回のお話を無碍にするのも心苦しかったため、アドバイス通り「前向きに検討」させていただきました。

現在3月初めですが世界的に新型コロナウイルスが流行中です。中国では先週時点で十分な臨床データが蓄積され、すでに核酸検査に加えAIによるCT画像診断が感染の基準に取り入れられました。

情報は日を追うごとに更新されており、報道番組は9年前の東北地方太平洋沖地震に由来した原子力発電所事故による放射能パニックを想起させます。少し話はそれますが、震災当時私は17歳（高校2年）で、テレビで生中継されている光景に固まって目が離せませんでした。何より放射線に関して予備知識を全く持ち合わせていなかったがゆえにどうすべきかわからず、全身から血の気が引いたのを憶えています。それと同時に他人事でない関心を掻き立てられました。なにせ現に日本の首都東京から200kmも離れていない場所で起こったことであり、関東東北圏を中心に日本全体が揺れていたからです。グーグルアースやTEPCOウェブサイトのライブカメラ映像で見ると、大量に積み上げられた黒色のフレコンバッグ、建屋が剥き出しになった福島第一原子力発電所を確認できます。

おそらく何百年と人々が戻ってくることはできないであろうと言われていた場所があります。事故当時の私は、この日本で人の住むことのできない土地が数十キロにもわたろうとは予想だにしていませんでした。しかし、今尚緊急事態宣言が解かれていないことが事態の深刻さを物語っています。この出来事は進路に迷っていた私にいまの道に進むきっかけを与えてくれました。日が経つにつれて忘れてしまいそうな自分に退路を断つ意味もありましたが、いまでは大変感謝しています。福島原子力発電所からの大気予測やモニタリングポストを見に行くことが日課の一つです。

最後になりますが、次号はもみのき病院の毛利明世さんをお願いします。彼女とは大学の同期でありましたが面識がある程度で、高知で再開したときは覚えてくださっていたことも併せて二重に驚きました。では郷土愛の持ち主、毛利さんにバトンタッチ。

総務報告（令和2年3月7日現在）

1. 高知県の会員数	<u>201</u> 名
2. 令和元年度会費納入者	<u>193</u> 名
賛助会員	<u>7</u> 社
3. H30年度会費納入者	<u>17</u> 名
4. 令和元年度新入会員数	<u>9</u> 名
(今月の新入会)	<u>1</u> 名
5. 令和元年度再入会員数	<u>0</u> 名
(今月の再入会)	<u>0</u> 名
6. 令和元年度退会者数	<u>16</u> 名
(今月の退会者)	<u>4</u> 名
7. 令和元年度転出者数	<u>1</u> 名
8. 令和元年度転入者数	<u>0</u> 名
(今月の転入会者)	<u>0</u> 名
9. 今月の会員異動	
なし	

(文責編集広報)